



うちのイチ押し!

オンラインで楽しむミュージアム

地方独立行政法人 大阪市博物館機構



美術・歴史・自然・科学など多彩な分野の学芸員のトークを楽しもう!

大阪市博物館機構では、オンライントークイベント「OSAKA MUSEUMS 学芸員TALK & THINK」を開催します。機構等に所属する学芸員が、日頃の研究成果や展示・資料の解説などをオンラインのライブ配信で楽しくお話しします。詳細はホームページで。



YouTube「OsakaMuseums」チャンネルでライブ配信

日時 令和5年2月4日(土)、5日(日)、11日(土・祝)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)
14:00~16:10
(各日2講座・計16講座)



前回の配信風景

住所 〒540-0008 中央区大手前4丁目1-32
電話 6940-0569 **FAX** 6940-4471
HP <https://ocm.osaka/>

大阪市立自然史博物館



特別展「大阪アンダーグラウンド」が帰ってくる!

令和3年に、新型コロナウイルス感染症拡大による休館の影響でわずか8日だけの公開となった「大阪アンダーグラウンド」展が、「大阪アンダーグラウンド RETURNS」として、12/17~2/26に帰ってきます。(詳細はP16参照)



バーチャル「大阪アンダーグラウンド展」当館HP「おうちミュージアム」にて公開中(上部2次元コード参照)

前回開催の様子は、VR展示室として公開中。スマホ・PCなどで、VR展示室の中を探検していけば、展示品の解説や学芸員によるギャラリートークの解説動画などを見ることができます。来館の前後に、VR展示室を見て、知られざる地面の下の世界について思いをはせてみてはいかがでしょうか。

住所 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23
電話 6697-6221 **FAX** 6697-6225
HP <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>



おおさか

歴史探訪

174

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

国産眼鏡レンズ発祥の地

お鍋を食べると眼鏡が曇る季節となりました。いまや日本の人口の2分の1を超え、約7500万人が眼鏡を使用しているとの話もあります。

実はかつてこの眼鏡生産の一大拠点^{たじま}が、大阪市生野区^{たじま}の田島にありました。

眼鏡はキリスト教宣教師によって日本に伝えられたのが始まりとされます。豊臣秀吉もルソン(現在のフィリピン)製の眼鏡を持っていたとの話もあり、徳川家康の遺品にも眼鏡があります。家康の眼鏡は現存しており、重要文化財に指定されています。江戸時代は基本的に輸入品でしたが、明治時代以降近代産業の一環として、国内でも眼鏡レンズが製造されるようになりました。

田島では、庄屋の家に生まれた石田太次郎^{いしだ たじろう}(大治郎)[天保2(1831)年~没年不明]によって幕末~明治初期よりレンズ製造がはじまります。度付皿にとりつけて研磨し、眼鏡用のガラスレンズを製造したそうです。農閑期の手工業として広がり、かつて当地で主流であった綿花栽培の衰退と入れ替わるようにして拡大、大正時代には電力による眼鏡専門工場も誕生し、海外へ輸出するまでに成長しました。昭和40年代には大阪には180軒の眼鏡レンズの業者が集まり、全国の9割を占めるほどだったそうです。

石田太次郎(大治郎)の「謝徳之碑」と「眼鏡レンズ発祥之地」という碑が、田島神社(生野区田島3丁目)の境内に建てられており、田島の眼鏡レンズの歴史を知ることができます。(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)



毎年11月3日に田島神社にて眼鏡祭を行っています。鳥居のしめ縄も眼鏡の形をしています。